



ちゅうおうわかい じょせいからいしやうかい
中央若い女性会長
だいいちこもん
第一顧問
キャロル・F・マッコンキー

こころ へい あん
心の平安



わたしは8才のとき、預言者であるデビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)を見ました。アメリカ合衆国ニューヨーク州のパルマイラに新しく建てられた、教会の建物をほうけんするために来たのです。わたしの家族はほうけん式に行きました。たくさんの人も来ました。わたしたちはみんな、預言者を見られるのでわくわくしていました。

小さかったわたしは、たくさんの人に囲まれて預言者がよく見えませんでした。でも、マッケイ大管長の愛は感じる事ができました。少しの間でしたが、白いかみの毛とやさしい顔を見る事ができました。わたしは、「神の預言者はこういう人なのだ」と思いました。聖文の中で預言者につ

いて読んだことはありましたが、預言者や中央幹部を直接見たのは初めてでした。預言者が本当にいることが分かりました。そしてわたしたちを愛していることも分かりました。わたしはその日感じた愛と平安をいつまでも覚えていでしょう。

11才のときも、心に平安を感じる経験をしました。ステーキ大会が近づいていたので、わたしはステーキの聖歌隊に入ることにしました。わたしはとても楽しみにしていました。すてきな白いブラウスを着て、特別な気持ちを感じました。その歌の歌詞には、ヨハネによる福音書第14章27節のせいがふくまれていました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたにあたえ

る。わたしがあたえるのは、世があたえるようなものとはことなる。あなたがたは心をさわがせるな、またおじけるな。」

そのせいはとてもわたしの心にひびいて、そのときからずっと心に残っています。その歌を歌ったとき、その歌詞に書かれていることは真実だと分かりました。イエス・キリストにしたがうことによって平安を感じられることを、せいが教えてくださるのを感じました。そのときから、むずかしいチャレンジにあうたびに、そのせいが心にうかび、平安をあたえてくれます。おさないころに学んだ真理は、それからの人生で祝福をあたえてくれました。■

イラスト/エミリー・ベニー